

## 東京芸術祭 2021 人材育成事業 (APAF) 事業計画

## 1. 事業枠組み：

## (1) 主催

東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/ト  
ーキョー実行委員会、東京芸術劇場・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文  
化財団）〕※東京芸術祭 2020 実績

## (2) 事業概要

東京芸術祭 2021 の中で実施される人材育成事業は、舞台芸術の鑑賞力を向上するものをは  
じめ、舞台芸術の専門人材を対象にしたものなどが予定されている。その内、国際的な舞  
台芸術の担い手の育成を目指すものが、APAF—アジア舞台芸術ファーム (Asian Performing  
Arts Farm) である。APAF は、2002 年にアジアの都市の交流事業として開催した芸術祭に  
始まり、2017 年から東京芸術祭の中で人材育成に特化するプログラムへと変遷した。

特に、2018 年にディレクターとして多田淳之介（演出家）が就任して以降は、芸術家が  
自身の地域性や専門性を強みに世界で活躍することを目指すものに変化した。このため、  
当事業は新作創作や公演といった通常の創作活動よりも、芸術家それぞれが力量を伸ばし  
ていくことが目的となっている。

## (3) プログラムディレクター

APAF ディレクター 多田淳之介

1976 年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。古典から現代戯曲、ダンス、パフォーマンス  
作品まで幅広く手がけ、現代社会に於ける当事者性をアクチュアルに問い続けている。  
子どもや演劇を専門としない人との活動、韓国、東南アジアとの海外コラボレーションも  
多数手がけ、演劇の協働力を基にボーダーレスに活動する。2010 年より富士見市民文化会  
館キラリふじみ芸術監督に公立劇場演劇部門の芸術監督として国内歴代最年少で就任、3  
期 9 年間務める。2014 年「가모매 칼메기」が韓国の第 50 回東亜演劇賞演出賞を外国人  
として初受賞。青年団演出部。四国学院大学、女子美術大学非常勤講師。

## (4) 主な会期

2021 年 10 月 26 日～10 月 31 日（予定）

## (4) 主な会場

オンライン及び東京芸術劇場ほか

## (5) 主たる期間のスケジュール（予定）

| 日 程                                | 場所・会場                           | 内 容                                      |
|------------------------------------|---------------------------------|--|
| 2021 年 5 月                         | オンライン                           | アートキャンプ参加者、インターン募<br>集<br>国際共同制作ミーティング開始 |
| 7 月                                | オンライン                           | アートキャンプ参加者選考会・決定                         |
| 8 月                                | オンライン                           | アートキャンプ開始<br>国際共同制作オンライン稽古開始             |
| 10 月 1 日～10 月 25 日                 | 水天宮ピット                          | 国際共同制作海外参加者来日及びオフ<br>ライン稽古               |
| 10 月 26 日～10 月 31 日<br>（うち 3 日間程度） | 東京芸術劇場アトリ<br>エイースト、アトリ<br>エウエスト | 国際共同制作の発表・上演<br>アートキャンプの成果発表             |
| 11 月 1 日                           | オンライン                           | 国際共同制作、アートキャンプ共に修<br>了式および振り返りミーティング     |

## 2. 内 容：

### (1) 国際共同制作（ワークインプログレス [2020年度のAPAF Exhibitionにあたるもの]）

APAF ディレクターが昨年の APAF Lab の参加者から 1 から 2 名の演出家・アーティスト（企画の主たる者）を指名する。このアーティストを中心に出演者や共同スタッフを集めチームを編成。内訳は日本を含むアジアから 2～5 名程度。このチームによってオリジナル作品のワークインプログレスを発表する。作品作りを模索する過程で、各参加者が従来慣れている環境や方法論から離れ、異なる演劇のあり方や創作方法について気付き、発見しながら、自分たちの集団的創作を試みる。

また、成果発表においては、観客などからフィードバックをもらい、作品へと反映していく。

#### ① オンラインディスカッション期

[日 程] 2021年5月以降9月まで 不定期

主たるアーティストがプランを練る期間。ディレクターや制作担当と相談しながら他のスタッフや出演者も選出していく。オンライン会議システムなどを活用する。

#### ② オフライン稽古期

[日 程] 2021年10月1日～10月25日

[会 場] 水天宮ピット（東京都中央区）

[参加者] ①で決めた出演者及びスタッフ全員が揃い、ディスカッション、リサーチ、及び稽古を積み重ね最終発表への準備を行う。

#### ③ 上演発表および公開ディスカッション

[日 程] 2021年10月26日～10月31日のうち最低3日以上

[会 場] 東京芸術劇場アトリエイーストまたはアトリエウエスト

[参加者] 同上

### (2) アートキャンプ [2020年度のAPAF Labにあたるもの]

未来の舞台芸術界を担う新しい才能を発掘・育成するため、日本を含むアジアを拠点に活動する演出家、振付家、劇作家、ドラマトルクなど舞台芸術の企画において中心的な役割を果たす作り手を参加者とする。選出方法は公募。

ディスカッションやレクチャーを積み重ね、作り手としての基盤を養う。参加者自身も公開ワークショップやトークを行い、海外での受け入れられ方や反応を体験するアートキャンプ。

様々な文化背景の参加者が集まることで文化的な差異に対する理解や扱い方を一層深め、日常の価値観を超えた表現の在り方を発見し、異なる文化背景の作り手や社会に対して作品を提示していく力を身に着ける。期間最後にはプレゼンテーションなど公開での成果発表を行う。このプログラムは原則英語で実施する。

また、ファシリテーターを複数名配置し、プログラムの構成から参加者選定、参加者たちの取りまとめ、最終プレゼンテーションへのガイド等を一貫した体制で密度の高いプログラムとする。

[日 程] 2021年9月～10月（最終成果発表を「2. 主な会期」内で実施）

[ファシリテーター] JK. アニコチェ（予定） ほかに1～2名

[参加者] 7～9名。アジア全域から公募し、APAF ディレクター及びファシリテーターが審査する

[講 師] 未定。国際的に活躍するアーティストほか

[会 場] オンライン実施（最終発表の形態については未定）

### (3) インターンやアシスタントの配置

国際共同制作の体験をキャリアの早い段階で経験し、自身の活動についての視野を広げていく機会として、上記（1）（2）の現場に若手スタッフやアーティストを受け入れる。次の2つは必須。

#### ① インターン・アーティストの実施 [2020年度のYoung Farmers Campにあたるもの]

海外での活動が未経験または浅い日本国内で活動する 20 代の若手アーティストを対象

に、本事業の国際的な創造の現場での補助業務などを通じて国際共同について知見を深める。海外アーティストや同世代の参加者同士の交流などによりこれからの活動につながる新たな視座の獲得を目指す。

[日 程] 上記（１）と（２）の活動期間

[参加者] 日本国内で活動する舞台芸術の若手アーティスト、スタッフを公募。5名程度

[会 場] オンライン及び本事業の稽古場や発表会場

#### ②通訳アシスタント

舞台芸術に特化した通訳になるための実践の機会として、当事業の通訳担当者などの補助業務をしながら学びの場とする。参加者は業務として有償とする。

[日 程] 上記（１）と（２）の活動期間

[参加者] 舞台芸術の通訳を志す方。1～4名。

[会 場] オンライン及び本事業の稽古場や発表会場

#### （４）その他

当事業は異文化圏にある大勢の人々が集まる事業であり、価値観や常識の相違を理解しあいながら協働していくことが前提となる。この具体的な実施のため APAF 独自のガイドラインの設置やコミュニケーションデザインという考え方を取り入れ実施する。

以 上